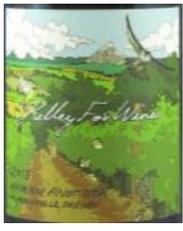


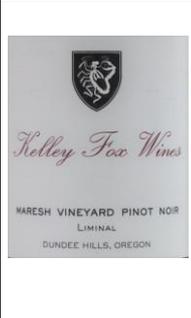
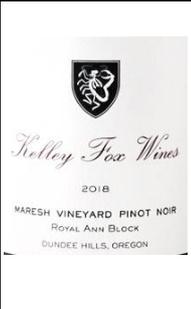
オレゴンの熟練生産者たちのもとでノウハウを学び、ケリー・フォックスは2007年にワイナリーを設立した。2005年から2015年まではスコット・ポール・ワインズで醸造長として働いていたが、2016VTからは、自身のワイナリーに専念する。また、特に影響を受けたのはジ・アイリー・ヴィンヤードの故デイヴィッド・レット氏だと、ケリーは話す。2018VTからは、彼女にとっての特別思い入れの深い、ダンディー・ヒルズのマーシュと呼ばれる区域の畑に注力しており、ワイナリーもより、仕事のしやすい場所へと移った。大学で生物学と生化学を修めたケリーだが、何ごととも決まりきった慣習通りには行わず、栽培でも過度の凝縮感求めず、醸造では舌と感覚を頼りに判断をする。エレガントなワインが得意やすいと言われる、ダンディー・ヒルズではあるが、ケリーの手にかかるとピノ・ノワールは、ひときわ伸びやかで、優雅なワインへと生まれかわる。

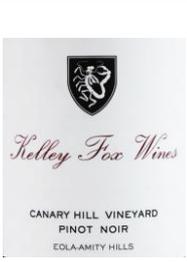
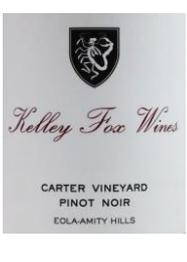
2023	冬から春にかけて気温は低く、降雪も多く、萌芽は例年より2~3週間遅れた。しかし5月以降は一転して記録的な乾燥と高温が続き、開花は急速に追いついた。夏は非常に暑く乾燥したが病害の発生はなく、結実も揃って収量は前年より大幅に多く、9月初旬の雨の後は理想的な天候が続き、区画ごとに適切なタイミングで収穫が行えた。2023年は2015、2014に次ぐ温暖な年であったが、糖度と熟度の進みは過度にならず、豊かな実を得ることができた。ピノ・ノワールは凝縮感とバランスを備え、白ワインはアロマが豊かで酸も保たれている。2018年や2016年以来の力強さを感じる年となった。
2022	月によって気候が目まぐるしく変わる1年だった。雨の多い冬だったが2月になると極度に乾燥し、また3月になると大雨で洪水が起き、初夏まで雨が降った。夏は例年通り乾燥したが、山火事は発生しなかった。9月の気候は理想的だったが、4月の霜の影響で例年よりも収穫時期は遅れた。最終的に白ワインはこれまででもトップクラスで良質なものができ、ピノ・ノワールはよくバランスの取れた味わいとなった。
2021	冬の降水量は平均並みだったが、気温は低く春まで乾燥していた。5月中旬に気温が1℃まで下がり雹が降る暴風雨があった。6月も何回か暴風雨があり、その後異常熱波で43℃を超える日が数日続き日の長さも相まって多くの作物が被害を受けたが幸運にもブドウへの被害はほぼなかった。総じてアロマが素晴らしい生き生きとしたワインができた。
2020	冬から春は全体的に平均より暖かかった。7月はここ10年で一番涼しい気温で始まり、曇りや雨の日が続いた。ブドウは実が非常に小さく結実不良も多かった。収量は1エーカー当たり1t程と少なかったが、ブドウの品質は全てが調和し完璧だった。9月の記録的熱波により、沿岸部まであちこちで山火事が起こった。畑への影響を考慮し赤ワインは造らなかった。
2019	これまでより彼女の思う「オレゴンワイン」に近づいた年。6月後半から7月にかけて記録的な大雨が降り、ウドンコ病が大流行した為、間引きを余儀なくされた。それにより収量は減ったが、果実はゆっくり味わいを深められ、最終的に味わいもバランスも美しく仕上がった。

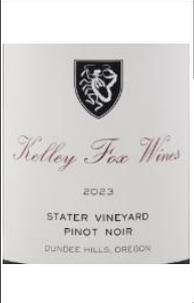
	○Willamette Blanc ウィラメット・ブラン		備考 大規模な山火事の煙によりブドウが燻されたので、赤ワインを醸造しなかった年。煙の香りがつかないように、ピノ・ノワールを白ワイン醸造した。通常のケリー・フォックスの味筋ではないが、煙にまみれたピノ・ノワールを何とかワインとして世に出そうとした苦心の作品。エチケットには不死鳥の絵があしらわれている。
	畑 品種：ピノ・ノワール70%、シャルドネ30% 植樹：1983年（ピノ・ノワール・自根）、1991年、2011年、2018年（シャルドネ） 位置：標高120~140m、東向き 土壌：レッド・ジョリー中心、シャルドネは一部古代海洋性土壌	醸造 収穫後すぐに压榨 ピノ・ノワールとシャルドネは別々のステンレスタックで醗酵 ピノ・ノワールはステンレスタックで澱とともに6ヵ月間、シャルドネはブルゴーニュ樽で澱とともに6ヵ月間それぞれ熟成しブレンド	
	○Nerthus ネルトウス		備考 ネルトウスとは豊穡を司る古代の女神のこと。エチケットはネルトウスをイメージしケリーの娘ヴァイオレットがデザインした。 品種構成はVTにより異なる。2022VTは、ピノ・グリ以外は全房プレスし品種ごとに別々に醗酵、ピノ・グリは数日間のマセレーション醗酵をさせ、ブレンドした。
	畑 品種：アーリー・マスカット、ピノ・グリ、リースリング、ピノ・ブラン他 植樹：2006年頃 位置：標高137~153m、南向き	醸造 それぞれ6~12日間のマセレーション 合成樹脂容器で醗酵、マロラクティック醗酵あり ステンレスタックで約5ヵ月間熟成	
	○Grüner Veltliner グリューナー・ヴェルトリーナー		備考 元々ネルトウスに混ぜていたグリューナー・ヴェルトリーナーだが、味わいが良いため単一品種で醸造をした。
	畑 品種：グリューナー・ヴェルトリーナー100% 植樹：2006年 位置：標高137~153m、南向き 土壌：古代海洋性土壌	醸造 ステンレスタックで醗酵、マロラクティック醗酵あり ステンレスタックで6ヵ月間熟成	

	<p align="center">○Willamette Valley Chardonnay ウィラメット・ヴァレー・シャルドネ</p>		備考	フリーダム・ヒル・ヴィンヤードの樹齢が若いシャルドネで造るキュヴェ。樹齢を重ねた後には、単一畑キュヴェとしてリリースする予定。
畑	品種：シャルドネ100% 植樹：2018年 位置：標高105~183m、南東向き 土壌：海洋性堆積土壌（ベルパイン）	醸造 ステンレスタンクで醗酵、マロラクティック醗酵あり ステンレスタンクで熟成		
	<p align="center">○Dux Vineyard Chardonnay ダックス・ヴィンヤード・シャルドネ</p>		備考	ダンディーヒルズA.V.A.に位置するダックスヴィンヤードで栽培したシャルドネを使って、2021VTから醸造。ダックス・ヴィンヤードでシャルドネを造ることはケリーの長年の夢だった。
畑	品種：シャルドネ100% 植樹：2011年 位置：標高137m、南向き 土壌：レッド・ジョリー	醸造 ステンレスタンクで醗酵 澱引きしブルゴーニュ樽（228L）で熟成		
	<p align="center">○Durant Vineyard Chardonnay - Lark Block デュラン・ヴィンヤード・シャルドネ ラーク・ブロック</p>		備考	アンフォラ型コンクリートタンクについて、ケリーは「子宮型」Uterine-shapedと呼んでいる。卵型ではなく、上部の径が大きく、下にむかってすぼまる形をしている。
畑	品種：シャルドネ100%（内96%がディジョンのクローン） 植樹：1991年 位置：標高250~300m、東向きの斜面 土壌：古代海洋性土壌	醸造 全房圧搾し、マセレーションはしないアンフォラ型コンクリートタンクで約2週間醗酵 ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成、新樽は使用しない		
	<p align="center">○Freedom Hill Vineyard Pinot Blanc フリーダム・ヒル・ヴィンヤード・ピノ・ブラン</p>		備考	ベルパインは海洋性の堆積土壌で、シルトや粘土を含み、水はけが良い。この土壌がピノ・ブランの栽培に適しているとケリーは考える。
畑	品種：ピノ・ブラン100% 植樹：2012年 位置：標高105~183m、南東向き 土壌：海洋性堆積土壌（ベルパイン）	醸造 全房圧搾 ステンレスタンクで醗酵 ステンレスタンクで熟成		
	<p align="center">○Stater Vineyard Pinot Blanc ステイター・ヴィンヤード ピノ・ブラン</p>		備考	ダンディー・ヒルズの区画のジ・アイリー・ヴィンヤードの区画とデュラン・ヴィンヤードの間に位置し、ほとんどピノ・ノワールが植えられているが、0.5エーカーほどの美しいピノ・ブランが植えられている。
畑	品種：ピノ・ブラン 100% 植樹：1990年（接ぎ木） 位置：標高120m、南向き 土壌：レッド・ジョリー（赤色火山性土壌、シルト・粘土・ローム）	醸造 マセレーションなし ステンレスタンクで6か月間熟成		
	<p align="center">○Maresh Vineyard - Old Vine White Riesling マーシュ・ヴィンヤード オールド・ヴァイン・ホワイト・リースリング</p>		備考	ケリーが80年代にオレゴンに越してきたとき、オレゴン産リースリングはとても人気が高く、ケリーもよく森の中でフクロウの鳴き声を聴きながら楽しんでたという。そのころ飲んでたワインを再現しようと試みたワイン。
畑	品種：リースリング100% 植樹：1970年 位置：標高137m 土壌：レッド・ジョリー	醸造 全房圧搾 ステンレスタンクで醗酵 ステンレスタンクで5か月間熟成		

	●Ahurani アフラニ			備考	ヴィツェル・ディクソンヴィル (Witzel-Dixonville)と呼ばれる土壌。 森に囲まれたモンタジの区画の畑から出来上がる、ケリーの造るワインの中でも比較的ボディのあるワイン。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1999年 位置：標高150~180m、南・南東向き 土壌：レッド・ジョリー、玄武岩	醸造		
	●Mirabai ミラバイ			備考	レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。火山性土壌でフィロキサがないので、全て自根。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1970~1991年 位置：標高122m、南・南東向き 土壌：レッド・ジョリー	醸造		
	●Hyland Vineyard Pinot Noir - Coury Clone ハイランド・ヴィンヤード・ピノ・ノワール コーリークローン			備考	濃い赤色をしているが、透明感はある色合い。涼しさを伴った、赤い果実味と、ハイランドの典型的な酸味が特徴。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1988年 (自根) 位置：標高183m、北・西向き 土壌：レッド・ジョリー	醸造		
	●Montazi Vineyard Pinot Noir モンタジ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール			備考	ヴィツェル・ディクソンヴィル (Witzel-Dixonville)と呼ばれる土壌。 プレスした果汁は使用しない。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1999年 位置：標高150~180m、南東向き 土壌：レッド・ジョリー、玄武岩	醸造		
	●Montazi Vineyard - Pinot Noir "Tir" モンタジ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール "ティル"			備考	"Tir"はペルシャ語で星を意味し、現代アラビア語では「弓矢」の意。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。火山性土壌でフィロキサがないので、全て自根。 プレスした果汁は使用しない。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：2003年 (複数のクローンの混植) 位置：標高150~180m、南東向き 土壌：レッド・ジョリー、玄武岩	醸造		
	●Maresh Vineyard Pinot Noir マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール			備考	レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。火山性土壌でフィロキサがないので、全て自根。 プレスした果汁は使用しない。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1970年 位置：標高122m、南・南東向き 土壌：レッド・ジョリー	醸造		

	<p align="center">● Maresh Vineyard Pinot Noir - Liminal マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール リミナル</p>		<p>備考</p> <p>マーシュ・ヴィンヤードの中でもさらに区画を限定しているLiminal。この区画のエネルギーをよりの確に表現するために「リミナル」という名前を付けた。この区画は黒クルミの木立と隣り合っている。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。</p>
<p>畑</p>	<p>品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1970年（自根） 位置：標高137~153m、南向き 土壌：レッド・ジョリー</p>	<p>醸造</p> <p>合成樹脂容器に30%全房で14~18日間マセレーション ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成 新樽は使用しない</p>	
	<p align="center">● Maresh Vineyard Pinot Noir - Star of Bethlehem Flower Block マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール スター・オブ・ベツレヘム・フラワー・ブロック</p>		<p>備考</p> <p>スター・オブ・ベツレヘム・フラワーは、南欧や南アフリカにみられる草花の名前。細長く白い花びらが、星のように見えることに由来。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。</p>
<p>畑</p>	<p>品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1991年 位置：標高120m、南向き 土壌：レッド・ジョリー</p>	<p>醸造</p> <p>合成樹脂容器に50%全房で約18日間マセレーション ブルゴーニュ樽（228L）で9か月間熟成 新樽は使用しない</p>	
	<p align="center">● Maresh Vineyard Pinot Noir - Red Barn Blocks マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール レッド・バーン・ブロックス</p>		<p>備考</p> <p>レッド・バーンは赤い納屋の意味。スコット・ポール・ワイナリーでワインメーカーとして働いていた時から10年以上、この区画とかかわってきたが、2018VTが最後の醸造となる。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。</p>
<p>畑</p>	<p>品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1970、1978年 位置：標高120m、南向き 土壌：レッド・ジョリー</p>	<p>醸造</p> <p>合成樹脂容器に50%全房で約17日間マセレーション ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成 新樽は使用しない</p>	
	<p align="center">● Maresh Vineyard Pinot Noir - Royal Ann Block マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール ロイヤル・アン・ブロック</p>		<p>備考</p> <p>ロイヤル・アンは、ブドウ畑にある樹齢100年のサクランボの木の品種名。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。</p>
<p>畑</p>	<p>品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1988年（自根） 位置：標高152~213m、南向き 土壌：レッド・ジョリー</p>	<p>醸造</p> <p>合成樹脂容器に約50%全房で約18日間マセレーション ブルゴーニュ樽（228L）で10か月間熟成 新樽は使用しない</p>	
	<p align="center">● Maresh Vineyard Pinot Noir - Golden Crowned Sparrow Blocks マーシュ・ヴィンヤード・ピノ・ノワール ゴールデン・クラウンド・スパロウ・ブロックス</p>		<p>備考</p> <p>区画名はこの地に生息する鳥の名前からとった。ケリーは数年にわたり数多くの鳥の鳴き声の録音データを聞き、この鳥の正体を突き止めた。</p>
<p>畑</p>	<p>品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1978年、1991年（自根） 位置：標高152~213m、南向き 土壌：レッド・ジョリー</p>	<p>醸造</p> <p>合成樹脂容器に約30%全房でマセレーション ブルゴーニュ樽（228L）で熟成</p>	

	●Weber Vineyard Pinot Noir ウェーバー・ヴィンヤード・ピノ・ノワール			備考	ウェーバー家が1978年に、初めて植樹したブドウ畑。マーシュー家とも仲の良い、ウェーバーが管理する畑で、ケリーにとっても、最も信頼のできる栽培家の一人。 レッド・ジョリーと称される、酸化鉄で赤味を帯びた火山性土壌は、シルトと粘土、ローム質が混じっている。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1983、1987年（自根のポマール・クローン） 位置：標高152m、東・南東向き 土壌：レッド・ジョリー	醸造		
	●Canary Hill Vineyard Pinot Noir キャンナリー・ヒル・ヴィンヤード・ピノ・ノワール			備考	ヴィンヤード名は周辺を飛び回っている黄色い鳥になんでつけられた。（正確にはその鳥はカナリアではない。）
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1995年（自根のポマール・クローン） 位置：標高137~168m、東向き 土壌：レッド・ジョリー、ネキア（より石が多い火山性土壌）	醸造		
	●Carter Vineyard Pinot Noir カーター・ヴィンヤード・ピノ・ノワール			備考	1974年から有機栽培が行われているカーター・ヴィンヤード。ケリーはここで2019VTからワインを造り始めた。この畑から生まれるワインは強い個性と気品を持つ。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1983年（自根） 位置：標高100m、南向き 土壌：レッド・ジョリー、ネキア（より石が多い火山性土壌）	醸造		
	●Durant Vineyard Pinot Noir デュラン・ヴィンヤード ピノ・ノワール			備考	ケリー・フォックスによる初のデュラン・ヴィンヤード単一ポトリング。1973年および1984年に植えられた自根のポマール・クローンからなる歴史あるダンディー・ヒルズの区画「Bishop Block」由来。完熟したオレゴンのイチゴや繊細なスパイスの香り、ミネラル感を伴う典型的なダンディー・ヒルズの個性を持つピノ・ノワール。
	畑	品種：ピノ・ノワール（ポマール・クローン）100% 植樹：1973年、1984年 位置：標高150m、南向き 土壌：レッド・ジョリー（赤色火山性土壌、シルト・粘土・ローム）	醸造		
	●Freedom Hill Vineyard Pinot Noir フリーダム・ヒル・ヴィンヤード ピノ・ノワール			備考	ダッシー家所有のフリーダム・ヒル・ヴィンヤード。透明感あるルビー色の中に深い力強さを秘めたピノ・ノワールが特徴的。熟した赤・黒系果実、スミレ、微細なスパイス、海のミネラル感など複雑な香りを持ち、赤果実、ダークチョコ、紅茶、コーラのフレーバー。野性味と気品を兼ね備えた、熟成向けの1本。
	畑	品種：ピノ・ノワール 100% 植樹：2000年 位置：標高150m、南向き 土壌：ベルバイン（砂岩上のシルト質粘土ローム）	醸造		
	●Shafer Vineyard Pinot Noir シェイファー・ヴィンヤード ピノ・ノワール			備考	トゥアラティン・ヒルズに1973年に自根で植えられたブドウから造られる。口当たりは絹のように滑らかで、静かに流れる赤果実の風味が長い余韻へと続く。軽やかでありながらも奥行きを感じさせる、霧のように儚く詩的なピノ・ノワール。
	畑	品種：ピノ・ノワール 100% 植樹：1973年 位置：標高180m、南向き 土壌：石英と粘土を含むシルト質のレス。	醸造		

	<p align="center">●Stater Vineyard Pinot Noir ステイター・ヴィンヤード ピノ・ノワール</p>		<p>ダンディー・ヒルズの区画のジ・アイリー・ヴィンヤードの区画とデュラン・ヴィンヤードの間に位置し、高解像度で緻密、構造的な骨格を持つ。果実の奥には微細な旨味が感じられ、酸と張りのあるストラクチャーが余韻まで美しく続く。洗練されたディテールを持つ集中力の高いピノ・ノワール。</p>
	<p align="center">●Blueberry Wine ブルーベリー・ワイン</p>		<p>ケリーがパートナーのジム・アンダーソン (Patricia Green Cellars) と共同で造ったブルーベリーのワイン。地元の農園の土着のブルーベリーを手作業で収穫し、赤ワインと同じように醸造した。酵母を最小限添加。醗酵が始まったタイミングと瓶詰め前に、少量のきび糖を添加している。</p>
畑	<p>品種：ピノ・ノワール 100% 植樹：1990年 (接ぎ木) 位置：標高120m、南～南東向き 土壌：レッド・ジョリー (赤色火山性土壌、シルト・粘土・ローム)</p>	醸造	備考
畑	<p>品種：ブルーベリー100% 植樹：1987年</p>	醸造	備考